

部会名	環境安全部会	会議名	第2回会議		
日付	6月16日(金)	場所	鶴嶺東コミセンC会議室	記入者	岡 宏樹

1 市民集会（8月）に向けて

- ・ 去年はテーマを「小学校周辺の交差点・横断歩道等の環境改善」の1つに絞って提案した。
- ・ 去年の合同訓練は、安否確認者が被災していない前提で有事の際の実効性に疑問が残る。
- ・ 実際の有事は自治会役員・班長・民生委員・防災リーダーが即座に支援できるわけではない。
- ・ 要支援者は自ら市へ申請している方のみであり、実態と乖離している。
- ・ 市から提供される要支援者リストは、年に1度送られてくるのみ。
- ・ 浜之郷・アイランズでは助けが必要な世帯・人数などを独自調査し安否確認表へ反映している。
- ・ サニータウンでは要支援等のプライバシー情報を出したくない住民が多く難航している。
- ・ 避難場所が指定されているが、最寄りではないパターンや通行に支障があるルートも課題。
- ・ 風水害の場合と地震の場合で、パターン・ルートが変わるが、その点も考慮すべき。
- ・ 今年のテーマとして、防災減災部会の考えにもよるが、当部会として「災害時の要支援者の支援を具体的にどうするか（平常時・災害時の要支援者の支援のあり方）」を提案する。

2 高齢者活性部会について

- ・ 取り組むべき背景や目的があって部会が発足しているはずだが、検討も困難な状況とのこと。
- ・ 活動を推進することができない状況に陥っているとの報告あり、別の部会と統合する案が役員会にて浮上しているが、少し違和感がある印象。
- ・ 解散を前提に、現部会員個人々人の意向に沿って他の部会へ分散する案も出ている。
- ・ 部会として、解散するのであれば、希望を募ってほかの部会に移ってもらうことに賛成する。

3 ごみの適正排出に関する啓発チラシ作成について

- ・ 会議前に事前配布された分かりにくい点・間違いやすい点(別紙)を共有した。アイランズで実際に間違えられた点(別紙)も長尺物・大きい物であり、配布資料と一致。
- ・ 市民生活上必要な物でありながら、環境事業センターが受け取らないゴミがあるのは課題。タイヤ・コンクリ・漬物石・側溝汚泥など、費用（大型ごみのように排出者に相応の負担を求め）がかかっても市で対応することが望ましい。
- ・ 市で処理ができなくとも、市が預かって各所へ繋いでくれるような対応が望ましい。
- ・ 不定期に訪れる不用品回収車は市と取引している事業者ではないことが多いという課題もある。
- ・ 車や免許を既に手放している世帯も多く、各所へ持ち込みづらいという課題もある。
- ・ 注射器の「感染性の疑い」の有無の判断は難しい。
- ・ 電池の分類は特に高齢者には解りづらい。
- ・ 環境事業センターとは、課題解決に向けて意見交換することで合意できており、日程等調整中であり、環境事業センターとの打ち合わせに向けて、質問事項、論点を整理する。なお、必要であれば、資源循環課にも参加してもらう予定。

- ・ゴミと資源物の分け方・出し方が自治会経由の配付となっていて非会員には配付できていない。非会員世帯にも配布されるべきであり、不適正排出の改善には不可欠だと思われる。
- ・市から全戸に配布するよう、部会として提案してはどうか。
- ・茅ヶ崎市ごみ分別辞典「ごみサク」はスマホですぐに操作可能で便利。ただし英語対応なし。
- ・啓発チラシに掲載して、推奨・紹介する案あり。解りづらい物干竿もこちらでは解りやすい。
- ・市民生活上必要でありながら「環境事業センターが受け取らないゴミ」の見直しを提案したい。
- ・「ゴミと資源物の分け方・出し方」の配付は、市から全戸への配布するよう見直しを提案したい。
- ・茅ヶ崎市ごみ分別辞典「ごみサク」の英語対応についても提案したい。
- ・課題に感じている点・疑問に思っている点・相談すべきだと思ふ点を部会員への宿題とする。

5 次回会議までの宿題について

環境事業センターと「ごみの不適正排出」に関して意見交換を行うことを前提に、課題に感じている点・疑問に思っている点・相談すべきだと思ふ点を部会員各々で洗い出し、今月中（6月30日まで）に、部会長へEメールで提出することとする。

□ 出席者6名：

高橋部会長（円蔵）・中村副部会長（浜之郷）・杉森（矢畑）・茨城（サニータウン）・佐藤（ホームタウン）・岡（アイランズ）

<次回の予定・内容>

- ・7月14日（金）午後1時15分から
ごみの不適正排出について（環境事業センターとの意見交換）